

9, 昼. 1969, 3, 11, 昼. 1969, 3, 28, 昼. 1969, 3, 31, 昼. 1969, 4, 16, 夕方~夜. 1969, 4, 19, 朝. 1969, 4, 20, 夜. 1969, 5, 3, 昼. 1969, 5, 12, 夜. 1969, 5, 13, 昼. 1969, 5, 24, 午後. 1969, 6, 9, 夜. 1969, 6, 14, 午後. 1969, 6, 28, 夜. 1969, 6, 29, 朝~昼. 1969, 6, 30, 夜. 1969, 7, 4, 夜. 1969, 7, 10, 夜. 1969, 9, 2, 夕方. 1969, 9, 8, 昼. 1969, 9, 9, 昼. 1969, 9, 27, 昼. 1969, 10, 3, 夜. 1969, 10, 5, 昼. 1969, 10, 19, 昼. 1969, 10, 20, 夜. 1969, 11, 14, 午後. 1969, 12, 5, 夜. 1970, 1, 27, 昼. 1970, 1, 28, 昼. 1970, 1, 29, 昼. 1970, 2, 23, 昼~夜. 1970, 3,

2, 夜. 1970, 3, 3, 昼. 1970, 3, 15, 昼. 1970, 4, 24, 朝. 1970, 5, 30, 昼. 1970, 6, 3, 昼. 1971, 4, 28, 朝~夕方. 1971, 10, 1, 朝.

文 献

- 荒川正一, 1971: 局地風, 天気, **18**, 103-115.
 福井英一郎, 1966: 自然地理学 I, 朝倉書店, 41-42, 175-176.
 早水逸雲・山鹿 延, 1950: 「マツボリ風」(阿蘇の急風)(第1報), 西部管区気象研究会誌, **7**, 52-62.
 倉嶋 厚, 1966: 日本の気候, 古今書院, 178.
 吉野正敏, 1961: 小気候, 地人書館, 69-71.

≡≡会員の広場≡≡

化 石

二年前の秋, 伊豆の西海岸のさる由緒ある神社を見学した折のこと, 私どもの町の文化協会から予め連絡してあったので宮司さんはいろいろの宝物(文化財)や自ら手造りの歴史物語りの人形, 方々から集取の石などを陳列して待っていて下さった。見学を了えてお暇しようとしたり是非みて頂き度いものがあるからこちらへと, 私と教育長とを招じられる。私達が石片や古文書などをいろいろ質ねたことから, この際鑑定をして欲しいものがあるといい, 実とは一段と声を低め, 「竜の化石があるのです, その真偽のほどを」とのこと。裏手の崖と社殿の間に注連が張られて居り, そこに広さ2m² ぐらいの平たい岩があり, 「これが磐座(いわくら)です」「ご尤も」その後方に長さ2m, 太さ(直径)が30cm ぐらいの少し彎曲した朽木のような岩が横たわっていた。「これがその竜の化石です」。見ると, 雨の中で黒っぽ

くやや緑を帯び, その肌には鱗片と思われる凸凹があって一帯に苔生して小草なども生えている。私は近づいてその石の肌を探り, 小石を指さしながら「ははア, これは礫岩ですナ」「フォーム, すると……。」そこで礫岩の話をしてから「その竜の化石という話の起りはどういうことですか」「昔のこと, 急に海が大荒れとなり船が難波した, その時天から竜が降りて着地したのがここです, あとで里人が来てみたらそれが石に化していたという……」「ははアその竜は竜巻きだったでしょうナ, 竜のように見えますからネ」「フォーム, 成る程. いやよく判りました。実はいままでどうも自分としてその辺割り切れぬものがあったので……。」という次第でした。

これは, 測候時報(41巻9号, 昭49.9)に岡順次先生が“竜の由来と起源”について詳しく述べられ, それを見せて頂いたので急に想いつき記したものです。(昭50.2.11). (藤村 郁雄)